

推進母体活動報告

循環器画像技術研究会

NTT東日本関東病院 塚本 篤子

1. はじめに

循環器画像技術研究会は、前名称シネ撮影研究会より引き続き 18 年の歴史を持ち、現在会長中澤靖夫氏（昭和大学病院）、副会長佐藤次男氏（千葉県循環器病センター）・若松 修氏（NTT 東日本関東病院）を中心に活動している。1 年間に 8 月の夏休みと 12 月の年末時期を除いて、毎月 1 回の定例会 10 回を開催し、2001 年 11 月で 180 回を数える。総会が年 1 回行われる。8 月にはサマーフレッシュセミナーが企画される。会誌が年に 1 回発刊される。

2. 会運営

会組織は、会長、副会長 2 名、常任幹事 7 名、幹事 13 名、監事 1 名、顧問 2 名（相澤 忠範氏・天内廣氏）、名誉会長（長谷川光男氏）で運営されている。担当は教育・渉外・企画・編集・総務・学術担当があり、それぞれで検討されたものが常任幹事会で話し合わせ、幹事会で承認される。

ワーキンググループが現在 5 つあり（脈管計測技術研究班・被ばく管理委員会・アンケート調査班・循環器業務標準化委員会・血管検査室感染対策委員会）、それぞれ活発に活動を続けている。平成 13 年の秋にはもう 1 グループ立ち上がる予定である。

3. 年間行事

3.1. 定例会

月 1 回の定例会は、15 時より 18 時で行われ、2001 年 4 月より開催場所が今まで大変お世話になった（財）心臓血管研究所付属病院より、NTT 東日本関東病院になり開催されている。毎回 50 人前後の参加者がある。

1 年間の定例会では、テクニカル・ディスカッション、医師講演、技師講演、パネルディスカッション、教育講座、ショートレクチャー、ニューテクノロジー・新製品紹介、関連学会報告などが行われる。

テクニカル・ディスカッションは毎回 30 分間

定例会の最初に行われ、いろいろな臨床情報を幹事施設が提供し、カテ前情報から造影技術までを科学的に計画・実行する思考のトレーニングを行っている。毎回、こわいくらいの活発な意見交換が行われている。

医師講演は、年間 6 回程予定され 1 時間の講演をいただいている。今年度は、

1. 成人になった先天性疾患の現状（6 月：千葉県循環器病センター、丹波先生）
2. 頸動脈に対するインターベンションについて（7 月：千葉大学医学部附属病院、小林先生）
3. 形態から見た心疾患の病態（9 月：埼玉県立循環器呼吸器センター、堀江先生）
4. 腹部動脈瘤の発生機序と臨床（11 月：榊原病院）
5. 心血管インターベンション後のリハビリテーションと生活指導（2002 年 1 月：榊原病院）
6. 冠動脈疾患に対するコンビネーション治療（Angioplasty、CABG）の現状（2002 年 3 月：）と実行企画されており、毎回興味深いお話を聞くことができる。

パネルディスカッションは年 1 回程度 2 時間 30 分で予定される。今年度は、循環器検査における放射線技師業務の標準化を取り上げ、10 月に行われる。大変興味深い内容でありどういったパネルディスカッションになるか楽しみにしている。

技師講演は、中澤会長（医療技術評価と EBM）と天内顧問（医療スタッフの安全意識構築とその組織的取り組みについて）が行われ、経験豊かなお二人の話が聞き有意義な時間をもつことができた。

教育講座・ショートレクチャーは、幹事が担当し基礎的な事柄や関心事（今年度は教育講演：心臓カテーテル検査における被曝軽減の工夫、IVR 検査に放射線技師はどのように携わって行くべきか、先天性心疾患の基礎、New Diagnostic Technique、心臓核医学検査、虚血性心疾患における心電図変化について、血管造影検査はいくらかかるか、循環器領域における CT 検査について、

血管内治療の現状と将来。ショートレクチャー：感染症と対策、カテーテルインターベンションで使用される用語解説、冠動脈造影）をそれぞれ 40 分あるいは 20 分間にまとめて講義している。

新技術・新製品紹介は、メーカーの方にお話いただいている。(画像ネットワークシステム、ステントデザインなど)

学会報告では、参加した会員により日本放射線技術学会・インターベンション学会・北米学会などの動向を報告いただき、参加できなかった会員も学会動向の現状の一端をつかまえられる。

3.2. サマーフレッシュセミナー

サマーフレッシュセミナーは、東京・神奈川・千葉・埼玉の一都三県で順番に担当・企画している。毎年定例会とは趣を別にして、自然と触れ合うことをモットーとして、会員の交流を深めることを目的にしている。今年度は、東京の担当で茨城県の“つくばふれあいの里”で、8月4日(土)～8月5日(日)実施され、通算 12 回目であった。今回は草木染め・藍染体験、植物の観察、リバーズロジスティクスの共同化事例についての麦田先生の講演を聞いた。夕食はバーベキューでお腹を膨らまし、その後 2 次会が夜中までの大宴会となった。

3.3. ワーキンググループ活動

各ワーキンググループが活発に活動を続けている。全国循環器撮影研究会・日本放射線技術学会等への発表や、論文投稿、パネルディスカッションの実施、アンケート調査実施、循環器被ばく低減技術セミナーの開催(今年度は 9 月 29 日に実施された。毎年テキストが改定されており、今回のテキストは中澤会長もうなられたものだろう。)などが行われている。

3.4. 会誌の発行

研究会の財産である会誌・循環器画像技術研究は年 1 巻発行され今年度で 19 巻を数える。医師講演・教育講演の原稿、テクニカル・ディスカッションの原稿等多彩な内容である。

4. 最後に

このように、循環器画像技術研究会では、まじめに楽しく、循環器検査に携わっている技師の質的向上を目指して活動を続けている。機会がありましたら参加してみませんか？